

「自主、自立、自信」子供の「できた!」を見守る伴走者



いずかし

令和8年5月14日
文責：園田

「読み解く力」について

5月半ばになり、新緑が目に見え、季節となりました。保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動へのご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

新しい学年がスタートして一ヶ月が過ぎました。子どもたちは新しい環境にも慣れ、日々の授業に、五月の爽やかな風のように生き生きと取り組んでいるところです。

さて、この度、本校が令和八年度からの二年間「読み解く力」の授業力を高めるモデル校に指定されました。近年の教育現場では、情報を正しく理解し、自分の考えを構築する「読解力」の重要性が改めて問われています。このモデル校指定を受け、本年度の研究は「読み解く力」の育成に重点的に進めてまいります。今回は「読み解く力」について少しご紹介いたします。

「読み解く力」って何?

国際的な学習到達度調査(PISA)では、「読み解く力」について以下の3つを説明しています。

●情報を探し出す力

語彙や文法を理解し、文章や資料(図表・グラフ等)から情報を取り出す力。

●テキストの分析(要点把握)

複数の情報を比較・関連付け、書き手の意図や論理構造を分析する。

●アウトプット

読み取った情報を基に、自分の知識や経験と照らし合わせて内容を批判的に吟味したり、

もつながりませう。

◎情報を整理する力

インターネットやSNSなど膨大な情報の中から、大切なポイントを引き出したり、フェイクや間違いに気づいたりする力です。

この、「読み解く力」は学校だけでなく、家庭でも身につけることができます。

■家庭で育める3つの読解力

特別な勉強をさせる前に、日常のちょっとした工夫で「読み解く力」の種をまくことができます。「これ、どう思った?」「読んで後やアニメを見た後、「どんなお話だった?」「一番好きな場面は?」と聞いてみてください。

(アウトプット)することが、

理解を深める一番の近道です。

また、言葉の貯金(語彙力)

を増やす事も大切です。文章を読み解くには、まず「言葉そのものの意味」を知っている必要があります。日常会話で少し新しい言葉を使ってみたり、「これってどういう意味?」と一緒に辞書を引いたりする習慣が、読む力を支えます。

最後に読み聞かせや音読も大切

です。スラスラと声に出して読める(音読)ことは、正しく内容を捉えている証拠です。また、親が読み聞かせをすることで、文字を追う負担が減り、物語の情景を想像する余裕

が生まれます。

「読み解く力」は、学習の基盤であるだけでなく、これから多様な社会を生きていく子どもたちにとって、一生の財産となる力です。これから、モデル校としての実践を積み重ね、子どもたちが「わかる楽しさ」を実感できる学校づくりを推進してまいります。研究の方向性は、後日紹介いたします。

授業参観・PTA総会

5月1日(金)に、「授業参観・PTA総会・学級懇談会」を行ったところ、ご多用の中にも関わらず多数の保護者の方にご来校いただきありがとうございます。

授業参観では、一つ学年が上がったお子様の成長を見つけられましたでしょうか。子供たちは、おうちの方に授業の様子を



はじめての授業参観の1年生

観てもらおうことをとても楽しみにしていたようです。特に、1年生は初めての授業参観ということで少し緊張していた様子でしたが、最後まで張り切って勉強を頑張る姿が見られました。

PTA総会では本校の教育方針について簡単に説明をさせていただき、補足として次の3点をお願しました。

(一)家庭学習の日の廃止

夏休みが、これから段階的に短くなる関係で廃止にしました。

(二)スマホの管理と監督

子供同士のSNSのトラブルだけでなく、深夜遅くまで使用して生活が乱れ、登校できなくなったり、安易に動画を投稿して取り返しがつかなくなったりするケースがあります。問題が表面化してからは手遅れになります。特に、昨年スクリーンタイム調査で、個人差はありますが、ゲームやスマホに費やす時間が非常に長いことが分かりました。今一度、家庭のルールを見直され、スクリーンタイムの設定をお願いいたします。

(三)「読み解く力」モデル校

本校が「読み解く力」を高める授業力アップモデル事業に指定されました。詳細は上の記事で紹介したとおりです。今年度から2年間、三中学校区の学校でこのモデル指定を受け、「読み解く力」の育成に重点的に進めてまいります。